

里山を歩く楽しみ

奈良川源流域での観察会の記録

二〇〇〇年

四月二日(日)

自然観察と

お花見の会

講師 松香光夫先生(玉川大学)

角田一夫

四月とはいえ、風が強く寒い朝でした。私は厚手のジャンパーを着て野川会長宅の前庭に九時半過ぎに着きました。庭の地面には紫色のカタクリの花が咲き、珍しかったのでしゃがんで見ていると、会長は自分が接木した花木の説明もしてくれました。十時、さあ出発です。今日は、奈良上の野川会長宅の裏山に登り、玉川学園の中を歩いて桜の花を見物します。

会長宅の土蔵の横を通り、元は会長宅の裏山だった玉川学園の敷地に入り、本山池に着きました(この池は地図には「奈良池」と書いてあります)会長の話では、この池は玉川学園に譲渡するまでは、清水が流れ込むきれいな池だったそうで、玉川学園農学部教授の松香先生も水質の悪化を嘆かれています。この池辺

の桜の若木には、ちらほら薄紅色の花が咲いていました。

さらに進むと、右手の斜面には大鳥桜の原木が立っています。この木は、会長のお父様が以前ここに移植したもので、花はまだ二分咲き程度でしたが、会長もこの淡く白い花が好きだと満足そうでした。

玉川学園のキャンパス内の歩道に入りました。桜の花はチラホラで、やはりまだ花見には少し早いかなど感じながら、カフェテリアの前を歩いていると、桜の原木が並んで立っていました。先に行く女性陣から歓声が上がりに、見ると太い幹のあちこちから、直接桜の花が咲き出していて、まるで桜のイヤリングみたいねと、おしゃれでかわいい桜を女性陣は楽しんでいました。

そうそう、話は変わりますが、例のチヨウゲンボウは、ガラスの群れを下に見ながら、上空を小さく旋回していました。数では負けていますが、飛行性能を誇っていました。

学園内の美術館では、卒業生の陶芸展をやっていました。どの作品からも若者の感性が伝わってきます。しばし時間を忘れて色や

形に見入りました。玉川学園の歴史や古代の遺跡展示コーナーも興味深く、この地区の歴史と玉川学園の役割について考えました。

十二時に現地解散となりました。花より、で、お花見の会はこれから始まると楽しみにしてきた約二十名は、会長宅の裏山の畑に再集合し、車座になりました。食べて飲んでアツハツと、笑い声は満開で、話に花が咲きました。

会長がする、この裏山に住んでいた毛の抜けたタヌキの話や、キジがメスをめぐって取っ組み合いの喧嘩をする話は迫力がありました。今は昔話になってしまったことが残念です。

いろんな生き物が住める里山や谷戸のピオトープのことを考えた有意義な一日でした。ありがとうございました。

二〇〇〇年
五月七日(日)

草笛の会

講師 佐藤邦昭先生(玉川学園)

山口博和

私が草笛と言って思い出すのは、小学校の頃、千葉県君津の山の中にある父の実家に、夏になるとよく行っていたことだ。そこで、懐かしそうに父が笹笛を吹いていたが、私はそんな事には目もくれずに釣竿を担いで川へ行ってしまった・・・ということとで、今回の草笛の会が、草笛を吹く初めての体験となった。

玉川学園の先生が講師としていらつしやり、草の名前や吹き方の説明が丁寧でわかりやすく、特にカラスノエンドウというのは、道端に生えている貧弱なえんどう豆くらいにしか思っていなかったが、それが笛になり、名前についているカラスというのも、熟すると黒くなることに由来しているなど、興味深い話が聞け、アシなど笛になるのかな?と思われるものまで笛にしてしまつ、なかなか面白い先生だった。そして皆、草笛が吹けた、吹けないと夢中になり、私も子供がもう少し大きくなったら一緒に草笛を吹いてみたいと思つた。



二〇〇〇年

七月二十三日(日)

奈良川源流域

ホタルの夕べ

森沢みつ

もう蛍を目にしなくなって久しい。

奈良二丁目に引越してきて二年余り、自然の中で蛍に会える楽しみに季節を待った。三、四日前からの強風は止まらず、あいにくの蛍日和となった。蛍は出てきてくれるのかなと少し心配しながら会場に行った。

会場には入りきれない程の大人と子供達に参加していた。蛍の生態が詳しく分かりやすく書かれているプリントと、会長さんの自然や蛍に対する優しい心配りや「苦労話を伺い、夜道を水田に向かった。強風の中であつたのに、除草剤を使わず守ってくださつた田んぼの蛍が、小さなかわい



光を出して、二つ三つ飛んだり稲の葉に止まったりしていた。初めて蛍を観た子供たちも本当にうれしそうだった。平家蛍の可憐でか弱い光を見ながら、いつまでも蛍の飛び里であるように、かけがえのない自然を皆で大切にしていきたいと思った。今日は、本当にありがとうございまして。

二〇〇〇年

十月七日(土)

虫の声を聴く会

講師 竹内一男先生(玉川大学)

夕暮れになって、谷戸の草むらのそちこちから湧き上がるような虫の声が聴こえてきます。

竹内先生の、「虫を学問的にとらえるのは大切ですが、それよりむしろ大きな自然を感じる事が大切ですよ。ついでには俳句を一句作りましょう」というお話と、横須賀の博物館の角田(つのだ)巨さんの丁寧な、鳴く虫についてのお話を胸に野に出ました。さっそく、歓声をあげて虫を捕まえ、あれこれと質問する子供達、優しく答えてくださる角田さん、あつという間に楽しい時が過ぎて、気がつくとも秋の日はとっぷり暮れて、白い月が上っていました。

「虫の声を聴く会」の句の数々

草原や 鳴く虫の声 月白く
 里守の 秋を語りて 輝く目
 鳴く虫の 聞かせるように 聞く子らに
 コオロギの 心ココロコ コンサート
 虫の声 自然を守り つぎの世に
 秋の月 静かな夜の 虫の声
 谷戸の原 虫の声聞く 人の群れ
 脱皮する 少年の羽 やわらかく
 虫の声 鳴りひびきたり リンリリン
 童心に もどる秋夜の 演奏会
 虫さがし おとももどもも 我忘れ
 秋来れば ここだこだと さわぎだす
 鳴き声を 灯火たよりに 昆虫採集
 月明かり たよりに探す 鈴虫や
 田の中で おかめコオロギ かおを出す
 秋の奈良 にぎやかなのは 人の声
 暗闇の なかから聞こえる 虫の声
 虫の声 心がなごむ ねいろかな
 虫みつけ 喜ぶ君の笑顔かな
 虫の中 こおるぎうじやうじや できたよ
 月あかり 虫とりはげむ 子供かな
 コオロギ科 煮ても揚げても 食べられる
 ハラツパを 走る我が子に 幼き日思つ
 子らのこえ さそわれ集う こおるぎたち
 つかまえる えんまこをろぎ 子供の目
 わらしべが 目を輝かせ 草薫る
 半月の あかりをたよりに 虫さがし
 「見つけたよ」 かけよるその手は 玉手箱
 虫の音に つられて始める 鬼ごっこ
 前足で 何を聴くのか コホロギよ
 柿ぬすみ ふと思ひ出す 野川さん
 虫の音が聴こえる 秋の夜長かな
 光の中 緑の間に スズムシが
 まつ虫が 秋をいざなう 月の夜
 草分けて 虫探しつつ 秋深し
 秋の夜は オークストラも まつ青だ
 コオロギを つかまえる手に 秋感じ
 コオロギの みみのばしよは まえあしだ

竹内一男
 角田(すみだ)一夫
 秋子
 魚
 琉
 こぼんだ
 ルナ
 牧
 てこりん
 秋人
 あんず棒
 まる子
 たか
 はるか
 まり子
 キリ子
 秋風
 ものけ姫
 アイ
 詠み人知らず
 エンマ子
 ひろし
 晋子
 テナガエヒ
 たく&ゆり
 好恵
 UFO
 カキドロボー
 磨
 山浩
 タナゴツチ
 秋味
 ケンケン
 ヒロコ
 奈良太郎

二〇〇〇年

十一月二十五日(土)

収穫祭

大盛況の報告とお礼

朝からピッカピカの秋晴れに恵まれ、今年も収穫祭がやってきた。土橋谷戸はごった返すほどの大にぎわい。谷戸でとれたての新米のおにぎりをほおばり、活動の写真展を見たり、フリーマーケットをのぞいたり、会の自信作の竹炭を買ったりして、田んぼの上の小道に座ってビールで喉をうるおすと、遠くでキジの鳴く声がある。

本格的なたれの味で名物となった田楽はもちろん、今年は大なべでぐつぐつ煮た具沢山の豚汁が好評で、ラッブをかけておみやげに持つていく人までいた。

それに、玉川大学のうら若い会員達がごんがり焼いたホットドッグは子供たちに大人気。たき火を囲むと焼き芋のいいにおいがただよ。奈良小の子供たちや近所のお年よりまで、老いも若きも楽しんだ一日だった。「おなかいっぱい、アー楽しかった!」会長さん、ありがとうございます!



二〇〇一年

二月三日(土)

奈良川源流域

節分 芋煮会

あしかり たいち

ボクは節分の豆まきにいきました。ママと歩きオバアチャンが手をふって、前の方ではみんながよいいをしていました。ぜんぶみわたせました。とても

きもちのよいところです。つくくとニコニコしたオジチャンオバチャンがたくさん、そしてター君がいました。ター君はやさしくてつよいおにいちゃんです。ボクにお魚をみせたり、とり小屋にいられてくれたり、オンブしてお山のてっぺんまでつれて

いってくれたりしました。竹林はよいニオイと音がすること、畑のふんできいところ、いろいろなおしえてくれました。火がもえて大きなおなべがグツグツ



にえて、おいしいニオイがします。ボクはたくさんたべました。豆まきもしました。ボクはいそいでひろってたべました。だからおうちにかえったら、口もながくつもまっくろくろくべえでした。とてもたのしい日でした。ター君、オジチャンオバアチャン、みんなみんなありがとうございます。またいくね。

二〇〇一年

四月七日(土)

奈良川源流域

春の鳥

講師 田淵俊人先生(玉川大学)



じ、若葉の色で、気持ちが開放され豊かな気持ちになりました。アツ! 柿の木の下、コゲラがあけた穴だそうですね。

空にはチョー

ゲンポー。先生の双眼鏡を、皆次々に見ると、大きなチョーゲンポーが玉川学園の体育館の屋根の上に! 見とれているうちに「ケンケン」雉の声。

原っぱの中にむく鳥、セキレイ、ツバメが。池の方では河鵜がわう、アツ!「ゼニタナゴが危ない」足元に、日本タンポポ。

玉川学園に入り、池には鴨が、道の横には美味しそうな竹の子。

満開の桜を見、横浜の方に眼を向けると、寺家の山々が見え、またまた広々とした気持ちになり、水、草、虫、鳥、人。

自然はぐるぐると廻り、生きとし生けるもの大切さを感じるパードウオッチングでした。

山本笠子
暑いぐらいの草いきれを感じながら、田淵先生と会長さんの挨拶もそこに、双眼鏡、カメラ、野鳥図鑑を持ち、子供も大人もわくわくしながら、玉川学園につながるグリーンベルトを歩きました。山は桜、つつ